

GLOBBER

EXPLORER TRIKE

エクスプローラートライク 3in1 三輪車
エクスプローラートライク4in1 ベビーカー

取扱説明書

コントロールバー付き三輪車・ 三輪車・キックバイク編



20 KG
MAX
EN71



Adresses sur quefairemesdechets.fr

日本正規総代理店：株式会社ダッドウェイ
神奈川県横浜市港北区新横浜2-15-12
お客さま相談室：0120-880-188
www.dadway.com



※本製品のSGマーク制度の対象は
コントロールバー付き三輪車と三輪車のみです。

はじめに

ご使用前に本取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、必要なときにすぐに取り出せる場所に保管してください。

この取扱説明書の対象となる製品

エクスプローラートライク3in1三輪車
エクスプローラートライク4in1 ベビーカー

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 小さなお子さまにも安全な使用方法を大人の方から丁寧にお伝えいただきから使用を開始してください。
- 本製品の使用中は、常にお子さまの状態や様子を確認してください。
- 本取扱説明書をお読みになった後は、必要なときにすぐに取り出せる場所に大切に保管してください。
- 本製品を第三者に譲渡する場合は、本取扱説明書も一緒に譲渡してください。

本取扱説明書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を、危険の大きさの程度に応じて、次のように分類して表示しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

- ▲ **警告** 注意事項を守らないと「**死亡や重傷を負うおそれがある内容**」です。
- ▲ **注意** 注意事項を守らないと「**軽傷を負うおそれがある内容**」です。

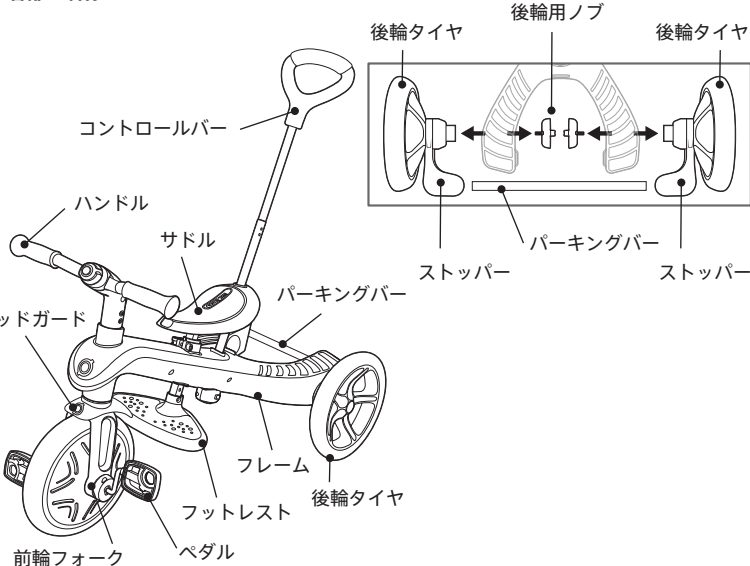
▲ 警告

- 三輪車としてご使用いただく際は、お子さまの足が地面およびペダルに確実につくことを確認してから使用させてください。
- コントロールバーとフットレストは、自走できないお子さまのための補助具です。お子さまがペダルをこいで自走できるようになったら必ず本体から外してください。

▲ 警告 使用条件に関する注意事項

- 【耐荷重】●20kgまで
- 【対象月齢】●コントロールバー付き三輪車は18カ月から36カ月、三輪車は24カ月から36カ月、キックバイクは2歳から5歳です。
- 18カ月未満のお子さまはご使用いただけません。

各部の名称



SGマークの被害者救済制度

SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、製品安全協会が事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施する制度です。幼児用三輪車の場合は、お買い上げ日より2年以内が有効期間となります。

- 賠償についてのご注意
認定された製品そのものが故障したとしても、その品質について保証するものではありません。あくまでも傷害など身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。
 - 製品の欠陥により事故が起きた場合
損害を被った消費者(お子さまなどの場合は保護者)が、事故発生日から60日以内に下記までご連絡願います。
 - 本製品のSGマーク制度の対象はコントロールバー付き三輪車と三輪車のみです。
- 対象月齢：18カ月～36カ月
耐荷重：20kg

一般財団法人 製品安全協会
東京都台東区竜泉2丁目20番2号
ミサワホームズ三ノ輪2階
<https://www.sg-mark.org/>

▲ 使用前の注意事項

- すべての部品が揃っていることを確認してから、組み立てを開始してください。不足があったときは、お客さま相談室へご連絡ください。
- ビニール袋などの梱包材は、開封後、直ちに捨ててください。お子さまが口に入れたり、被って窒息するおそれがあります。
- 本製品は一人乗り用です。二人以上を本製品に乗せないでください。お子さまや第三者がケガをするおそれがあります。
- 使用前に本製品が正しく使用できるか、以下の項目について点検してください。
 - ・すべての部品が揃っていること
 - ・クランプやノブなど、固定部分に緩みやきしむ音がないこと
 - ・本体にゆがみや破損がないこと
 - ・後輪のストッパーが正常に動作すること
 - ・前輪、後輪の回転に異常がないこと
- 道路交通法をはじめとする交通規則に従って正しく使用してください。
- 小さなお子さまにも安全な使用方法を大人の方から丁寧にお伝えいただきから使用を開始してください。
- コントロールバーを使用する際は、必ず大人の方が操作を行い、お子さまの足が巻き込まれないようにご注意ください。
- 本来の用途以外では使用しないでください。
- 破損や異常が発生した場合はすぐに使用を中止し、お客さま相談室にご連絡ください。破損、故障をしたまま使用しないでください。

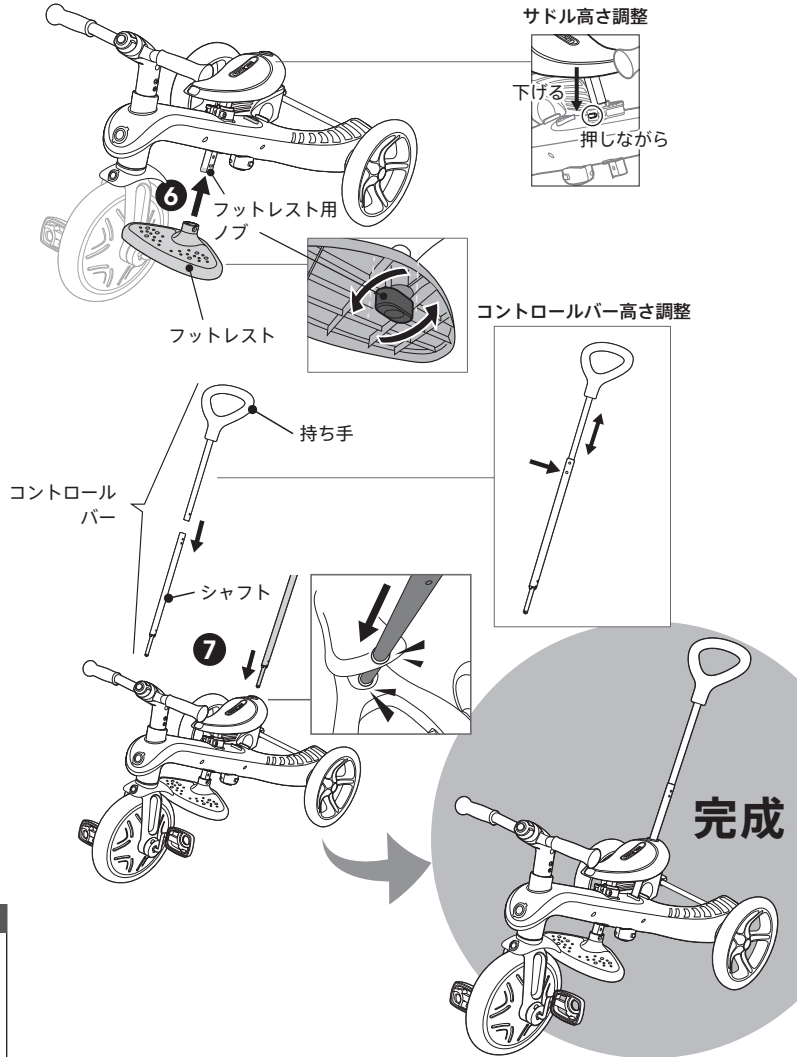
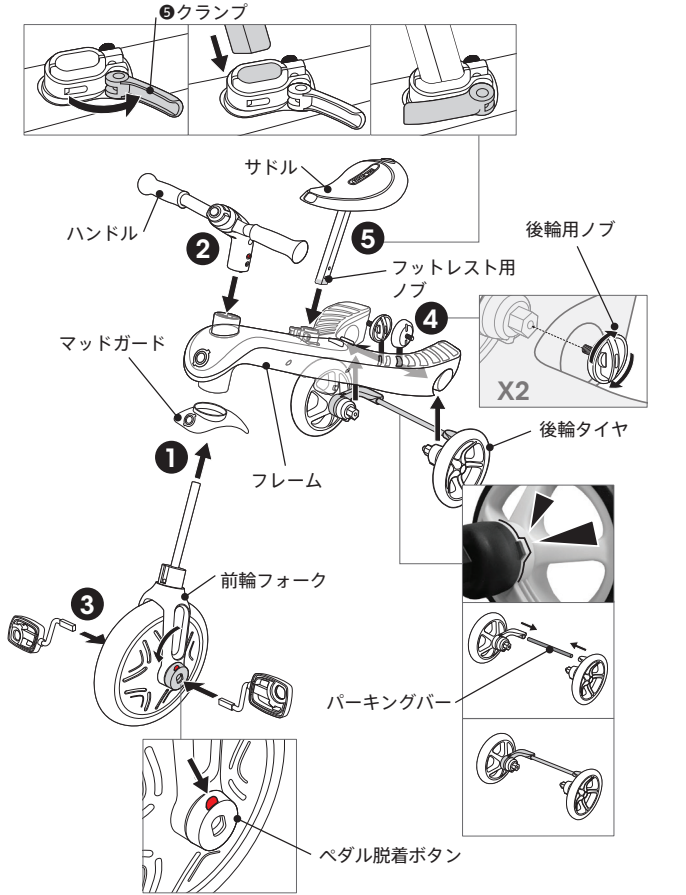
同梱品

フレーム、前輪フォーク、マッドガード、ストッパー付き後輪タイヤ(左右)、パーキングバー、後輪用ノブ(2個)、ハンドル、サドル、ペダル(2個)、フットレスト、コントロールバー(シャフト、持ち手)、取扱説明書(本書)

コントロールバー付き三輪車の組み立て

- 前輪フォークの軸を、マッドガードを通しフレーム前方に下から差し込みます。
- ハンドルを前輪フォークの軸に、カチッと音が鳴るまで押し込みます。ハンドルの取り付けの向きは、赤いボタンがお子さまの左手側になるように取り付けてください。
- ペダル脱着ボタンを押して前輪左右にペダルを差し込み、固定します。
- フレーム後部の六角形スロットに、リアブレーキがフレームと平行になるように後輪を差し込み、左右ブレーキの間にブレーキバーを差し込んだ状態で左右の後輪用ノブを締めます。


- クランプを開き、サドル軸のプッシュピンを押しながらカチッと音が鳴るまでサドルを押し下げ、クランプを閉じます。サドル軸の「MAX」という印がサドルの高い位置です。サドル軸を一番下まで押し込んだところがサドルの低い位置です。
- フットレストをサドルの下から差し込み、サドル軸先端のフットレスト用ノブを90度ひねり固定します。フットレスト取り付けの向きにご注意ください。
- 持ち手とシャフトをつなげ、コントロールバーをシート背面の穴、サドル穴、フレーム穴と順番に通し、カチッと音が鳴るまで差し込みます。





ペダルと前輪のロック、ロック解除の操作方法


前輪の赤いロックボタン/ロック解除ボタンにより、前輪とペダルの連動を切り替えることができます。



ロックボタン/ロック解除ボタンは、前輪の反対側にあります。

- ロックボタン(施錠マーク)でペダルと前輪が連動し、ペダルを回すことで前輪が回転します。

-ペダルと前輪をロックするには、前輪の赤いロックボタン(施錠マーク)にある△マークを内側の△マーク(4カ所)のいずれかに合わせ、施錠マーク側の赤いロックボタンを押し込みます。

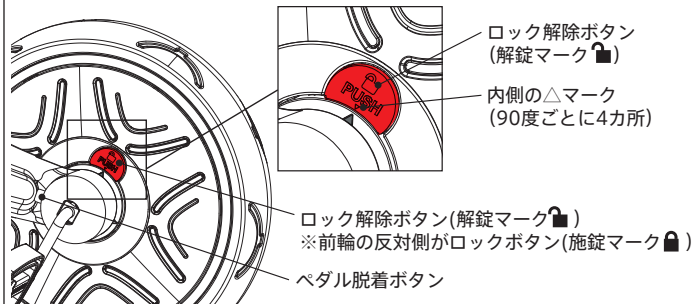
-ロック、ロック解除の操作後は、必ずペダルと前輪が連動していることを確認してください。

- ロック解除ボタン(解錠マーク)を押すとペダルと前輪が連動せず、ペダルが空転します。

-ロック解除するには、前輪の赤いロック解除ボタン(解錠マーク)にある△マークを内側の△マーク(4カ所)のいずれかに合わせ、解錠マーク側の赤いロック解除ボタンを押し込みます。

前輪が回ってもペダルが空転し、お子さまの足をペダルに乗せたまま三輪車を押すことができるようになります。

-ロック解除の操作後は、必ずペダルが空転していることを確認してください。



警告

ロック解除によりペダルと前輪を空転させることは、コントロールバー付き三輪車でのみ使用してください。

三輪車ではケガをするおそれがありますので、必ずペダルと前輪をロックしてください。


パーキングバー・ストッパーの使用方法

- ・パーキングバー及びストッパーは後輪を固定し、三輪車を動かないようにします。
- ・製品を静止する際は、必ず後輪部のパーキングバーまたは左右のストッパーをしっかりと押し下げてください。
- ・静止を解除するには、パーキングバーまたは左右両方のストッパーを足で完全に持ち上げます。左右のストッパーがカチッという音がしたら、後輪の固定は解除されます。

警告

パーキングバーまたはストッパーは、三輪車の速度を落とすために使用しないでください。パーキングバーまたはストッパーを使用して三輪車の速度を落とすと、後輪の機構に重大な損傷を引き起こすおそれがあります。

コントロールバー付き三輪車の操作方法

- ・お子さまがサドルに座り、フットレストに足を乗せ、ハンドルを両手でにぎり、大人がコントロールバーを押して歩きます。
- ・コントロールバーをひねると、前輪と連動し、曲ることができます。
- ・足の巻き込み防止のため、前輪の赤いロック解除ボタン(解錠マーク)をカチッと音が鳴るまで押し込み、ペダルが前輪に対し空転することを確認します。
- ・停止するときは、カチッと音が鳴るまでパーキングバーまたはストッパーを押し下げます。必ずパーキングバーまたは左右のストッパーを使用してください。

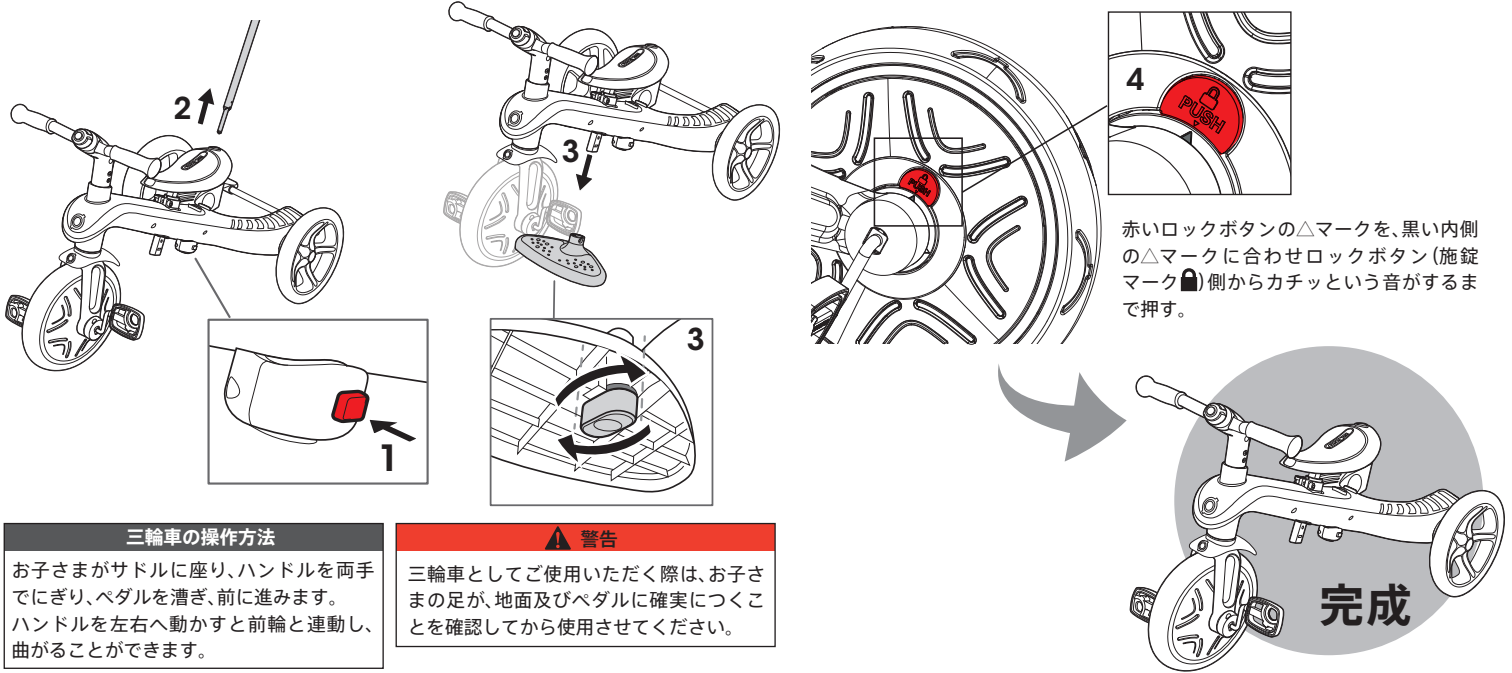
各部の調節・取り外し方

- ペダルの外し方
ペダル脱着ボタンを押しながらペダルを抜き取ります。
- サドルの高さ調節(2段階: 34cm、31cm)
クランプを開き、黒い突起部分を押しながらサドルを調節します。
- コントロールバーの高さ調節(2段階: 92cm、96.5cm)
プッシュピンを押しながら、コントロールバーを上下させます。

コントロールバー付き三輪車から三輪車へ変更する場合

- 1 フレームの下部にある赤いボタンを押しながら
- 2 コントロールバーを取り外します。
- 3 フットレスト用ノブを90度回し、サドル軸のプッシュピンを押しながらサドルからフットレストを取り外します。

- 4 前輪の赤いロックボタンの△マークを、黒い内側の△マークに合わせ、ロックボタン(施錠マーク🔒)側からカチッという音がするまで押し、ペダルと前輪が運動していることを確認します。



三輪車の操作方法

お子さまがサドルに座り、ハンドルを両手でにぎり、ペダルを漕ぎ、前に進みます。ハンドルを左右へ動かすと前輪と連動し、曲ることができます。

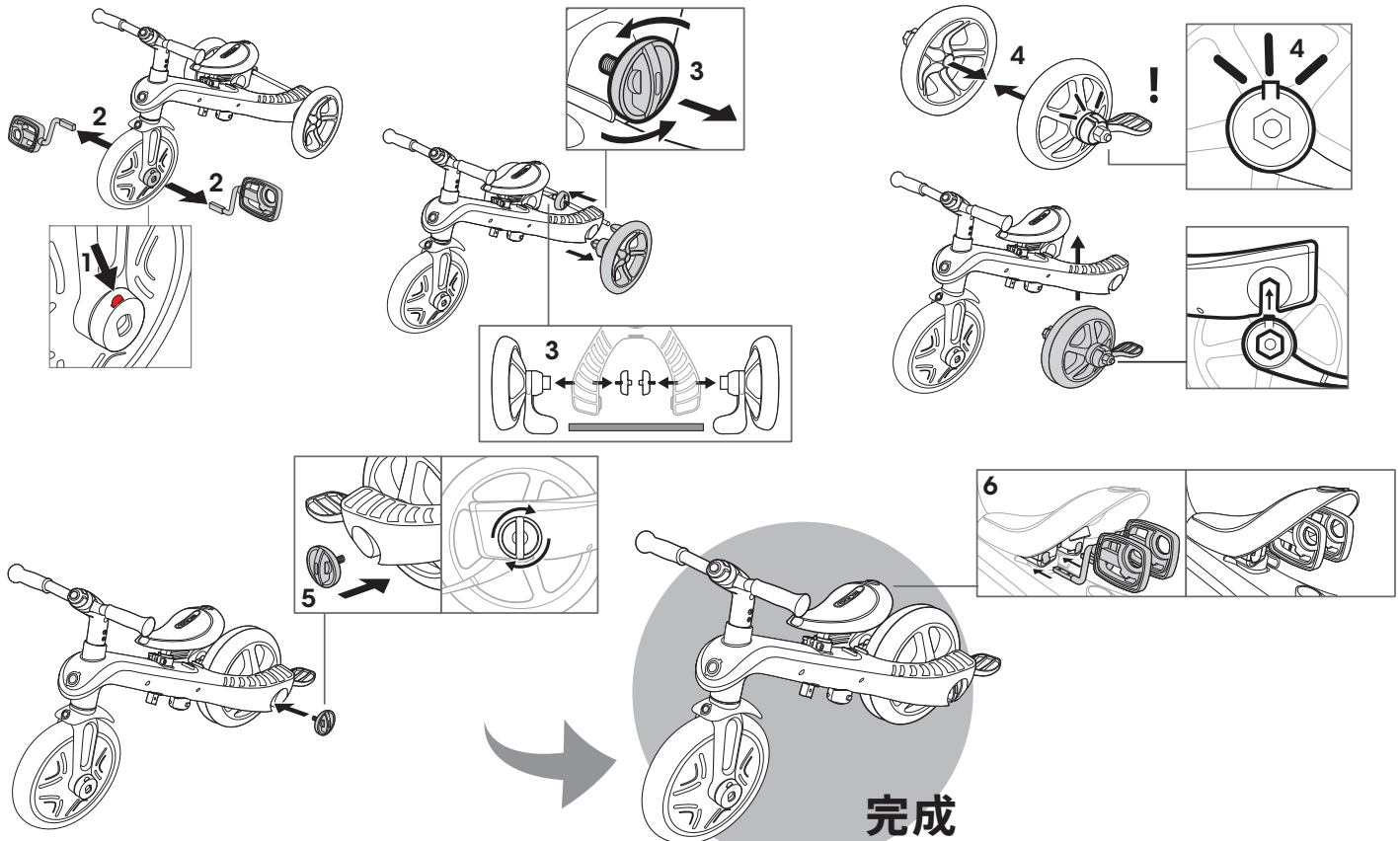
警告

三輪車としてご使用いただく際は、お子さまの足が、地面及びペダルに確実につくことを確認してから使用させてください。

三輪車からキックバイクへ変更する場合

- 1 ペダル脱着ボタンを押しながら
- 2 前輪からペダルを取り外し、
- 3 後輪用ノブを左右ともに外し、パーキングバーを取り外します。

- 4 左右の後輪を合わせ、フレームの内側に入れます。このとき車軸にある突起部分をフレームの受けに合うように後輪を入れます。
- 5 後輪用ノブを締めます。
- 6 ペダルをサドル後部に収納することもできます。



キックバイクの操作方法

お子さまがサドルに座り、ハンドルを両手でにぎり、足で地面を蹴り、前に進みます。ブレーキは足で地面を踏むことで減速します。

警告 キックバイクとしてご使用いただく際の注意点

- 必ず左右のペダルを取り外してください。
ペダルによりケガをするおそれがありますので、ペダルは絶対につけたまま使用しないでください。
- 常に安全具(ヘルメット、肘当て、膝当て、手袋)を着用してください。
- 路上では使用しないでください。

警告 使用時の注意事項

- フットレストを使用する際は、毎回使用前に確実に固定されているか確認してください。
- お子さまを乗せたまま本製品を持ち上げて移動しないでください。
- お子さまを乗せたままサドルの高さ調節をしないでください。
- 不安定な場所でお子さまの乗せ降ろしをしないでください。
- お子さまの乗せ降ろしの際は、本体が不安定になり転倒するおそれがあります。平らな場所でパーキングバーを押し下げて後輪を固定し、本製品が動かないことを確認して、しっかりと支えてください。傾斜地や不安定な場所の場合、大人が支えていてもタイヤが動き出したり、倒れるなど、事故の原因となるおそれがあります。
- サドルの上にお子さまを立たせないでください。フットレスト、ペダル、フレームの上にお子さまを乗せないでください。
- お子さまがサドルから立ち上がらないようご注意ください。サドルに立ち上がってコントロールバーによりかかると三輪車ごと転倒するおそれがあります。
- お子さまをサドル以外の部分に乗せないでください。
- ストラップやひも状のものをお子さまの近くに取り付けしないでください。お子さまの首に絡まるおそれがあります。
- パーキングバーまたはストッパーは、速度を落とすために使用しないでください。パーキングバーまたはストッパーを使用して速度を落とすと、後輪の機構に重大な損傷を引き起こすおそれがあります。
- 停止している間はパーキングバーを押し下げて後輪を固定してください。
- ストッパーは構造・機能上、絶対に動かないようにするものではありません。路面の状態によって動く場合があるため、注意してください。
- 後輪が固定されていても、お子さまを乗せたまま離れないでください。
- 坂の途中や車道に近い歩道上など危険な場所に放置しないでください。
- 製品に寄りかかったり、一か所に荷重をかけないでください。
- 後方転倒に注意してください。コントロールバーにものを吊り下げると、後方に転倒しやすくなります。
- 段差を乗り越える場合は、コントロールバーを下方向に押し前輪を持ち上げてください。
- 路面の溝に車輪を取られたり、挟まれたりしないよう、溝部分を通過する際は注意してください。

警告 使用環境に関する注意事項

- 交通の頻繁な道路、車両交通の多い場所では使用しないでください。
- 乾燥した平らな地面で使用してください。凹凸や排水溝の格子等の隙間は避けて使用してください。
- 水、油、砂の中での走行は、思わぬ事故や破損の原因となりますのでお止めください。
- 階段やエスカレーター、大きな段差のあるところや、坂道、道路、濡れた路面、砂場、砂浜、河原、ぬかみなど悪路では使用しないでください。
- 雨など悪天候時に使用しないでください。スリップする危険性が高くなります。
- 雪が積もっているところや凍結したところなど、滑りやすい路面では使用しないでください。
- 風の強いときや雷が鳴っているときなど、悪天候時は使用しないでください。
- 路面の状態などによっては、後輪を固定していても動き出したり、転倒するおそれがありますので注意してください。
- 夜間や視界が不十分な際には使用をしないでください。
- お子さまや第三者のケガにつながる転倒や衝突のおそれがあるため、注意してご使用ください。
- 必ず大人の目の届く場所で使用し、常にお子さまから目を離さないでください。また、まわりや地面の状況に注意を払って使用してください。

注意 操作や取り扱いに関する注意

- 本製品の操作や取り扱いは、適切な状況判断ができる人が行ってください。
- 本製品を分解、改造しないでください。改造等を行った製品は保証の対象外となります。
- 付属品以外は使用しないでください。
- お子さまを乗せることを目的としたボードなどは取り付けしないでください。

注意 メンテナンス・保管に関する注意事項

- 本製品の上に重量物を載せないでください。タイヤが曲がるなど変形・破損の原因となり、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 部品に緩みや外れがないか、特に後輪、ペダル、サドルおよびハンドルを定期的に確認してください。
- 部品の破損や損傷がないか定期的に確認し、もし発生した場合はこの製品の使用を停止してください。
- 摩耗や剥離の症状がないか定期的に確認し、もし発生した場合はこの製品の使用を停止してください。
- 本製品をお子さまの手の届く場所に保管しないでください。思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 直射日光や雨風の当たらない場所で保管をしてください。色あせや部品がサビるなど劣化を早め、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 直射日光やストーブの温風などに本製品を長時間さらさないでください。また高温の車内などに長時間保管しないでください。
- 火の近くや車内など、高温になる場所には置かないでください。部品の変形などがおこる場合があります。
- 組み立てた状態で保管する際は、パーキングバーを押し下げて後輪を固定してください。
- 本製品を高所や不安定な場所に保管しないでください。
- 高温・高湿な環境で長時間保管しないでください。カビが発生したり劣化するおそれがあります。
- 廃棄する際は、お住まいの各自自治体の示す方法に従ってください。

注意 使用条件に関する注意事項

- 衣服などがタイヤ近くに垂れないように注意してください。衣服がタイヤに巻き込まれるなど、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 適切な操作のため必ずお子さまが両手でハンドルをにぎるようにしてください。
- お子さまが乗降する際は、ハンドルを両手でつかみ、進行方向を向いてお乗りください。
- 車輪の周囲に手を入れしないでください。
- 聴覚や視覚の妨げになる物、または製品の機能を損なう物と一緒に使用しないでください。
- 本製品の三輪車等への組み替えは、お子さまや他のお子さまの手や指などを挟むおそれがありますので、お子さまや他のお子さまが近くにいないことを確認してから、必ず大人の方が行ってください。
- タイヤは磨耗するとスリップする危険性が高くなります。安全確保のため速やかに交換してください。
- 本製品に無理な力や、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 自転車・オートバイ・自動車等で引っ張る、荷物の運搬等、お子さまが乗って遊ぶ本来の目的以外には使用しないでください。本体が破損したり、お子さまや第三者がケガをするおそれがあります。

お手入れ方法

- 汚れが付着した場合、乾いた布や水で濡らし固く絞った布で拭き、完全に乾燥させてください。
- アルコール成分を含む除菌シート等で製品を拭かないでください。塗装が剥がれたり、変色、変形するなど製品が劣化する可能性があります。

トラブルシューティング

- コントロールバーがうまく操作できない
 - コントロールバーがカチッと音が鳴るまで刺さっているか確認してください。
 - 前輪、フレーム、ハンドルが適切に繋がっているか確認してください。これらの箇所はコントロールバーと連動しています。
- フットレストが外れてしまう
 - サドル軸先端のフットレスト用ノブを90度回し、脱落防止処置を行っているか確認してください。
- サドルが下がってしまう
 - サドル軸を固定するクランプが緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合、クランプのネジを六角レンチで締めてください。
- サドルを下の高さにすると固定されない
 - サドルはプッシュピンなどで固定はされませんが、お子さまが乗車した時の体重で常に押し下げられる設計となっており、安全にご使用いただけます。※地面からのサドル高(上: 34cm、下: 31cm)